

川  
柳  
集

ほんとのほんと

三木今朝雄著

はじめに

川柳集『ほんとのほんと』は昭和五十二年以来二十数年にわたり、私の日常生活のなかで、おりにふれときにふれて詠んできた川柳のうち、「産経新聞」ぐんま川柳に掲載された作品を集めたものです。

また、掲載した作品はすべて、全日本川柳協会常任幹事で産経新聞ぐんま川柳選者である、清水惣七先生の選になつたものです。先生には大変お世話になりました。心から敬意を表し厚く御礼申し上げる次第です。

ともあれ文字どおり稚拙な作品ばかりですが、私にとりましては一句ごとにそれぞれ一生懸命に作つたのです。ご笑覧願えれば幸甚です。

平成十三年七月 三木今朝雄

ひとまわり小さいたまごそつと替え

名場面隣の席も眼鏡拭き

犯人も警察犬の鼻に負け

自慢する矢先に名馬癖を出し

北方の話になると尻込みし

議長団メリットなしで金をかけ

行革の真っ只中に定数増

老いらくの恋もめばえる球技場

花束の贈呈母はやはり泣き

過疎の村ドル箱やたら減つていき

父の日もあつて意味ない独り者

三選と任期延長またにかけ

ボーナスを半分のせてカー走り

カラオケにゲートボールのよき時代

梅雨明けの暑さ一度にやつてくる

お互いにちょっぴり増えた顔の皺

発掘は古代の時を掘り起こし

貿易は黒字家計はうるおわづ

クラス会よくしゃべるのは劣等生

控え目で長続ける嫁姑

いい婆になるといいつつまた小言

犯罪の動機もつともらしく述べ

へそくりの置場がばれる妻のかん

違反選挙議席の代価高くつき

よく稼ぐ妻でご亭主働くかず

七五三ビデオと車パパの役

マル優を案ずる程の余裕なし

還元は遅く利下げはまつたなし

輪をかけた年賀はがきは売残り

トントンは師走の人気書き集め

迷信といいつつ恵方向く弱さ

年玉に敬老年金もつてかれ

丙午新成人の数が減り

蔵相の帰国を待つて枠外し

再三の利下げ預金も魅力失せ

定数減地方議員が範しめし

売上税ふれず国会空転し

列島が売上税で揺れ動き

倒産に内需拡大間に合わず

いざとなりやお墨付きより票の数

中曾根さんついに読経で氣をしづめ

大型を中心とよび間接税

公約も屁理屈つけて反古にする

世の流れ嫁に仕える姑増え

核家族二重世帯で無駄ばかり

解禁日名人顔で家を出る

父の日はさけて手ぶらの子供づれ

派の中で系と系との小競合い

幹事さん宴会の後飲みなおし

初対面名刺と顔を見比べる

ゴリ押しで理屈は無視の米議員こめ

温泉も商品にされ宅配便

代議士の数では自慢のお国柄

秋迫りニユーリーダーも吐く本音

御神輿に一年の汗みんな出し

小会派どこにつくかで決る運

いい嫁と口で言いつつかげで泣き

痩せますよただそれだけに騙される

中流も家賃を払う日本国

家持つて定年後まで続くローン

はした金賄賂で前途棒にふり

褒め合つて最後の会談ロンとヤス

預貯金の平均額は夢数字

眺めてて休みあがりの庭園師

面倒は見ずに財産だけ目当て

脱税も番付つくるように増え

旅先で大法螺どうしが吹競い

言葉より背なで教える父となり

割当の大臣やはり物足らず

混浴の方が賑わう露天風呂

非常口たしかめてから着替えする

日本一決めたボールを仰ぐ空

底辺の暮しは知らぬ天下とり

幹事さん酔つた塩梅見てまわり

新春の挨拶みんな辰を入れ

相撲界震撼させて綱は去り

一年の計立てて現実ともなわず

おたかさん台詞をかえて茶を濁し

根まわしの政治の是非は論じかね

円満の陰で姑はじつと耐え

花粉症男まさりも泣かされる

我が党であいた口から手前味噌

公立にバスして孝の子と言われ

湯祭りの女神まぶしく向くカメラ

拾得金ネコババ始末税でつけ

現実の豊さなくて世界一

我が家とは名前だけなりローンの家

お見合いも紹介だけで気をきかせ

お見合いも数をこなせば度胸つき

乱闘はソウル五輪の新種目

国会の審議も止めるリクルート

我が家でも一人出したい芸能人

低辺を知らぬ輩が税を決め

カラオケにプロ顔負けの衣装つけ

福達磨やはり最後は顔で決め

改造は派閥割当ところてん

初場所を涙の勝利北勝海

豪華雑見栄は張りたし金足らず

葉書まで一円乗せて消費税

酔つたふり勘定すめばしゃんとなり

大トラも一度に醒める妻の声

野天風呂訛りちがいも話しあけ

百薬の長だんだんに量を増し

適齢期すぎて望みはまだ同じ

四面楚歌なおも未練なトップの座

誕生から墓場にまで消費税

リクルート総理生み出す金も出し

身辺はいつも綺麗きれいと賄賂とり

ボーナスの振込み妻は大歓迎

党籍の離脱に期間ついてなし

振込みで手ぶらで帰るボーナス日

自民不信野党頼れずなに選ぶ

禁煙をすすめ売上げピーアール

納涼を汗で演じて見せる人

色褪せた妻が家計をきりもりし

折一つ帰省の客の長逗留

予想屋は鉛筆だけで家計立て

ムード勝ちされど驕りは許されずおご

大国と言われ実感未だわかず

国債をかかえ外地に金を出し

古希でなお嫁と言われる長寿国

低辺も長者も同じ消費税

腹八分だけではすまぬ高い空

金バツヂ憂国の士はあらわれず

与野党のパチンコめぐり泥仕合

老練も婦人若手に先こされ

雛壇に野党が並ぶ消費税

消費税福祉のためとこじつける

見直しは思いきつてと尻つぼみ

年賀状やめればポスター派手に貼り

絵馬を書く顔は真面目な子にもどり

四島も蒟蒻問答して帰り

義理チヨコと判つていっても胸おどり

消費税いやといいつつ自民支持

異動月窓際族で氣は揉め<sup>も</sup>ず

ハツキリというが取り柄で出世せず

志士も出ず鞍馬天狗も現れず

大店法大物たちが大奇弁

防大も卒業までで進路変え

割勘で長続きするいい仲間

平等がいまだわからぬ消費税

政治家は昔散財いまは貯め

夏休み教師も子らもタガゆるめ

党勢の伸びぬ公明策を変え

消費税野党の鼻息尻ぼそり

貢献策結論も出ぬ無能ぶり

帰省客田舎の嫁の泣き笑い

坊ちゃんを気取つて浸かる道後の湯

いざという時にあいまい海部流

会談の後は援助を背負い込み

解放に土下座礼状ただ呆れ

平和賞自國の民のさめた顔

世論には鉄の女も座を下りる

指導力バラマキだけの海部さん

サツチャ一も後は秘蔵つ子トップにし

元長官金の亡者となりさがり

体力の伸びに能力おいつかず

高齢を鈴木おろしのたねにする

行政も塵に追われる浪費国

湾岸のつぎは貿易再燃し

都知事選判官びいきも上乗せし

秋にらみ内は火花の自民党

多数党中は寄り合い敵味方

改革はたてまえ本音は秋の陣

健康法ただ聞くだけで役立てず

吟行の着膨れもいる梅三分

与野党も国会裏はなれあいで

政界のドン脱税の範を垂れ

お手盛で不況しりめの議員族

露天風呂肩書なしの友ができ

G セブン歐米圧力もろにきき

お祭りも裏方さんは報われず

蝦鯛えびたいを見こむ母の日プレゼント

選挙にも世界の手がいるカンボジア

平成の夜明け保革の関ヶ原

G セブン電話討議ですむ程度

低温に燗酒で飲むビアホール

連立へ自民野党は目の敵

披露宴豪華な料理値踏みする

野次罵倒議員というは顔ばかり

年金もただで受けてる訳でなし

国予算四苦八苦でもする支援

君が代と国旗が好きな新総理

農政の不手際ついにツケがくる

連立の閣僚違憲を口に出し

米不足左党も気になる仕込時期

日の本は汚職買収後たたず

消費税打ち出の小槌にならぬよう

引越の蕎麦も名刺で間に合わせ

支持率のように参らぬ新政権

福だるま一格おとす不況風

氣にもせずカードで買って破産する

節減の工夫はせずにとる工夫

官僚の意のまま動く内外政

選良に愛國の士は見当たらず

改革の定数減はかげもなし

不景気に理屈はぬきの神頼み

農の国休耕のツケ米を買い

米国へ殿城代も出つぱらい

無駄使いなくせば新税いらぬほど

元大臣黙秘でとおす脛のきず

宰相の発表一夜で反古にされ

お手盛で不況尻目にアップ決め

米不足氣にもとめない戦中派

こんなとき役に立たない米管理

国産米一時かくれて高くなり

輸入米届いて騰い米を買い

野合でもただ権力が欲しいだけ

交際の程度で中元間引きする

やさしさで国がまわれば苦労なし

無駄使いやはり減らせぬ国予算

大店の進出多く町廃れ

変身も党是はどこへ社会党

消費税アップ社党のなきどころ

半世紀謝罪外交いつ終わる

ま ま な ら ん 二 つ の 顔 の 新 総 理

減 税 の 財 源 や は り 消 費 税

増 減 収 い ず れ も 困 る 米 農 家

弱 者 に も や さ し い 政 治 見 当 た ら ず

無 駄 使 い 特 殊 法 人 も う い ら ん

消費税嫌った主がアップする

尊徳を顧問にしたい国財政

自衛隊継子あつかいま祟り

暗記した謝辞で息つく余裕なし

震災に官邸無能さらけだし

心せよ謝罪と補償ワンセット

無能ぶり国を束ねるタガゆるみ

披露宴新婦と女房見比べる

ボーナスものびず女房に低姿勢

中元の相手も妻と選択し

五十年決議で他はかえりみず

連立は政権維持に日をすごし

政党は助成のほかに金集め

年金で食べて球技で日をおくり

各国の制止無視する核実験

胃検診すんで格別飯の味

国予算無駄もそのまま引継がれ

支援米献上米にされかねぬ

柔道の猛者も女房にははいと言ひ

禁煙も医師の指示ならその日から

宿につき先ずは見ておく非常口

三世代同居の食事ひとつ苦労

嫁姑好いも悪いも紙一重

責任は減俸にしてかたをつけ

金儲けできず取り柄はただ真面目

相手の名別れ間際に思い出し

忘れ物とりに戻つてまた忘れ

待合で聞けば誰もが風邪といい

弱腰の外交いつも舐められる

夏休みママの寝坊もあと三日

官僚の意のまま動く日本国

若いですその一言に気をよくし

七五三ママの着付けを優先し

良い年を神と約束して帰り

福袋頭の上を越えていき

政治道けものの道とついに化し

大蔵のキャリアゆすりに転落し

いつまでも揉み手外交舐められる

大看板かかげ改革埒あかず

手前みそ閣外協力見放され

失政に政治ばなれの民となり

選良も公僕までもいまは死語

ひとつおり呼んで孫の名思い出し

国防も内から揺らぐ國となり

氣前よく援助を決めて赤字債

七五三ママの晴着のコンクール

愛犬も景気良し悪し餌で知り

大太鼓総理育てた山の町

針供養どの娘も真面目な顔となり

義理チヨコか本物のかちと迷い

地域券その分だけは預金にし  
舐められていまだに懲りぬ訪朝団

国債でお手盛予算気にもせず

ご粗末な国防意識にただ呆れ

正論も数には勝てぬ多数決

定数の話になると足踏みし

たてまえと本音がちがう人集め

ひさびさの珍客実は金無心

閉め出され軒場で明かすご前様

テポドンも拉致もとぼけて援助乞い

国債であまり気にせず組む予算

赤字では記録づくりの國となり

国債を預金のごとく組む予算

福達磨縁起かついで廻り道

義理チヨコに胸躍らせるもてぬ奴

四島を戻せる總理九分はだめ  
選良も初心忘れて賄賂とり

プロ野球家族同士もライバルに

国会は質すも答もまとはずれ

米支援馬鹿になるのも程があり

北鮮にすぎた援助も役立たず

迷信で恵方参りは高くつき

敷地内で子は別棟に住みたがり

病氣より胃力メラ嫌う人もあり

原稿を忘れ仲人立往生

プロレスラー 花粉症には技がなし  
妻臥して煮炊きの苦労肌で知り

世のながれ女首長も出る時代

自衛隊有名無実で役立たず

国防に他力依存ゆるされず

## 川柳集について

「ほんとのほんと」は、二十数年にわたる長い年月をかけて詠んだ作品を集めたものです

その時々の社会状況にも現在同様に日々変化があり、また、時代の推移がありました

そうした背景も句のあちこちに見受けられることと存じますが、ご諒解のうえご笑覧願えればと一筆添えさせていただきました